

フットサルリボン第4回慰問レポート

日時：2014年5月2日 15時00分～17時15分

場所：静岡県内病院

対象：入院患者とその家族（45人）

協力：株式会社ドリブルジャパン、株式会社アントレックス

概要： 1、入院中の子どもとその家族を集めてボールを使ったアクティビティ
2、病室の個別慰問

訪問者： デウソン神戸

湘南ベルマーレフットサルクラブ

株式会社アントレックス

鈴木 拓也選手

久光 重貴選手

レックス（着ぐるみ）

実施レポート

1、入院中の子どもとその家族を集めてボールを使ったアクティビティ（60分）

入院中の子どもとご家族に集まってもらいボールを使って遊びました。小さな子どもが多かったので選手を囲んで椅子に座ってもらいました。院長先生が2人を紹介して下さいした後、選手等も挨拶をして早速ボールを配りました。



お父さんやお母さんも一緒に参加してボールの上に座ってみたり、立ってみたり。



足を怪我している子どもも足の裏でボールにタッチしました。そして2人の選手がプロのテクニックを披露したり、お父さんや医師が選手からボールを奪おうとチャレンジしました。



一緒に遊んですっかり仲良くなったみんなと集合写真を撮りました。そして、選手からひとりずつプレゼントを渡しました。



2、二手に分かれて病室の個別慰問（60分）

鈴村選手は着ぐるみとペアになり、久光選手は1人でアクティビティに参加できなかった入院中の子どもたち 25人を個別に慰問しました。久光選手は車椅子に乗っている子どもたちに出会い、高めに蹴ったボールを子どもたちが両手でキャッチするという遊びをしながら会話をしたりプレゼントを渡しました。人見知りの子も終始ご機嫌でした。



一方、鈴村選手の方は大人気の着ぐるみと病棟をまわり、若い子どもたちも大喜びでした。



●病院側から

- ・本当にひとりひとりの子どもと丁寧に接して下さって、とても気持ちが良いです。
- ・人見知りの子どもがあんなに笑っているのがすごいです。
- ・子どもたちに選手等ががんと闘っていると言ってくれたんですか？それは子どもたちにとって大きな励みになるでしょうね！
- ・次回はもっとアクティビティに子どもたちを集めます。
- ・ぜひまた来てください。他の病院も来てほしいと思うので紹介します。

●子どもたちから

- ・退院したらフットサルを観に行く。少し遠いけど神戸にも行きたい。
- ・まだ言葉が話せない子どもも選手が離れると泣いてしまうほど一瞬で打ち解けていました。
- ・もっと一緒に遊びたい。
- ・治ったらお父さんとお母さんと一緒に試合を観に行く。
- ・二人でボールを蹴りたい。
- ・絶対試合を観に行くから忘れないで。

●親御さんから

- ・自分の子どもは小児がんなんです。でも、こうしてがんになっても選手として活躍されている方に会えてとても励みになりました。
- ・(自分の子どもに向かって)お父さんが選手のボールを取りに行くために頑張ったように、お前も前向きに頑張って治療すれば必ず治るから。
- ・子どもと一緒に試合を観に行きます。
- ・久光選手のヘアスタイルを見て子どもが親近感を感じて自分から近付いて行ったようです。

●選手から

- ・個室に入院している子どもは最初は恥ずかしがっていたけれど、すぐに受け入れてくれて笑顔になりました。大部屋では同じ部屋に入院している子どもや親同士が仲が良く、みんなで交互に写真撮影をしたり会話が弾みました。
- ・病院の方々が大変好意的で親切にしてくださったので、とても楽しく慰問を行うことができ感謝しています。
- ・アクティビティを始める時は子どもたちが不安そうな顔をしていたけれど、終わる頃にはだっこをせがんでくれたり表情が全く違ったのを感じた。
- ・大会議室があればボールを使った遊びが十分にできることがわかったし、やはりアクティビティが出来るとたくさん子どもたちと触れ合えて嬉しい。
- ・看護師さんや職員の方が盛り上げてくださってやりやすかったです。病院側の協力がなければ成り立たない企画なので、役割分担をしながら今後も子どもたちに笑顔を届けていきたい。
- ・今後もメディアの方には現場の現状を多くの人に伝えていってほしい。それによって子どもたちやその家族に支援をしてくれる人が増えると思う。